



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

6F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

LOJAPR04/05 No.70

FAOプレスリリース

FAO (国際連合食糧農業機関) 日本事務所  
2004年11月23日

### 北朝鮮の 2004/2005 年度食料需給見通しについて

#### ハイライト

- 2004/05 年度の北朝鮮の食料生産は前年より約 3 %増加するものと推定され、2001 年以降続く回復傾向は続くと思われる。
- これは、本年は概して好天に恵まれた上に、病虫害の害も少なかったこと、前年に比べ微減とはなったものの国際社会からの支援による肥料の供与があったこと、OPEC 資金による Kechan-Taesong Lake 運河の完成により主要穀物生産地域での灌漑施設の改善がなされたこと、などが生産が比較的良好となったものである。
- じゃがいも（穀物換算）、一般家庭の家庭菜園及び傾斜地で生産を含めた 2004/05 年度の穀物生産は、423.5 万トン（米は精米換算）と、過去 10 年間での最高の生産と予測される。
- 生産回復にもかかわらず、国内生産量は依然として最小限の食料必要量をかなり下回るものであり、商業的な輸入にも限りがあることから、同国は、本年度もかなりの対外的な食料支援に依存せざるを得ない。
- 2004/05 年度の穀物の不足量は 89 万 7,000 トンと推定される。商業的輸入を 10 万トン、韓国からの有利な条件による輸入を 30 万トンと見込んでも 49 万 7,000 トン不足することとなる。このうち 17 万トンは、2004 年 10 月初旬の調査ミッションの訪問時点で食糧援助の誓約がなされた分である。
- 総人口の 70%の人々の主食を賄う公的配給制度（PDS）による配給量は、目標値を大幅に下回っており、人が一日に最低必要とするエネルギーの 50%程度を配給できるとどまる。近年、政府は、個人の家庭菜園で生産された生産物や市場向けの生産物の販売活動に対しては緩やかな措置を取ってきている。しかし、低所得層の家庭にとって市場で食料を確保することは、失業、雇用の不安定、食料品物価の急騰などで購買力が低下していることから厳しいものとなっている。
- 本調査ミッションは、2005 年には、644 万人もの脆弱層が、40 万トンの穀物と 10 万トンの穀物以外の食糧の支援を必要とすると推定する。

- こうした慢性的かつ構造的な食料不足に対処するため、緊急に必要とされる食糧援助に加え、国際社会は、持続的な食料生産と全般的な食料安全保障を促進するための、経済、金融及びその他の支援を動員する枠組み作りのため、同国政府との政策対話を開始することを推奨している。
- 本調査ミッションは、土壌改良プロジェクト（例えば、酸性土壌への石灰の使用、有機物、マメ科作物の導入した作物ローテーション）の検討、農業機械の利用向上対策（例えば、トラクター、収穫機械、脱穀機、トラック、農具、スペアパーツ、タイヤ等へのアクセス向上）を実施することを推奨している。このことにより生産性を上げるとともに国内の2毛作地域の更なる拡大が可能となる。

## <概況>

2004年9月28日から10月9日までFAO/WFP合同の調査ミッションが同国を訪問し、2004年産作物の生産量を算定するとともに、2005年の冬・春作物（小麦、大麦及びじゃがいも）の生産見通しと2004/05年度（11月から10月）の食料需給見通しを行うとともに食糧援助必要量についての推定を行った。

調査団はEUのオブザーバー同伴で、政府及び協同組合関係者への聞き取り、収量算定のため、圃場での作物収量調査を実施した。また、学校、保育所、病院、公設配給所及び農村及び都市家庭を訪問した。本調査ミッションは、全国12道のうち、FAOの調査員が、穀物・じゃがいも生産の約9割を占めている、平安北道、平安南道、黄海北道、黄海南道、咸鏡北道、咸鏡南道、両江道、江原道の8道を訪問した。WFPの調査員は、他の道に比べ家計レベルの食料不安が厳しいとみられている北部及び北東部地域（咸鏡北道、咸鏡南道及び両江道）を訪問した。このほか、国連関係者、非政府組織（NGO）、在平壤外交団及び中央、道及び郡の政府関係者との協議を行った。また、作物の生育状況を確認するためSPOT-4衛星画像、FAOの植生データ、現地の降雨・気温データも併せて使用した。

2004年は作物生産についてはまずまずであったとみられる。作期初期における苗床の準備段階での適度な降雨があったことにより、移植や播種は概ね順調となった。6月半ばから8月にかけて降雨が激しくなり、冬の小麦収穫に影響を及ぼした。じゃがいもの収穫にも影響があった。他方、この雨は主作物の生育には貢献した。順調な収穫を促進する乾燥、晴天が8月中旬以降10月まで続いた。また、本年の作物は比較的病虫害の影響は免れた。

電力の向上と良好な降雨の結果、灌漑は年間を通して適度であった。昨年建設が完了したOPEC資金によるKechan-Taesong Lake運河が主要穀物生産地域での灌漑施設を改善したものの、機械化は進展善しておらず、トラクターに大きく依存する二毛作は限界に達しているものと見られる。肥料の使用は昨年より若干少なかった。

以上から、2004/05年度の作物生産は総じて良好で、2003/04年度の水準を若干上回るものと期待され、中でも米は5.6%の増加（籾ベース）となる。また、トウモロコシは前年とほぼ同様、主作のじゃがいも生産は9%以上下回る。作付け初期の過度な湿気は稲作生産にはプラスとなったが、他の作物には大なり小なり悪影響を及ぼした。更に、5万トンが家庭菜園での生産、5.5万トンが傾斜地での生産分として追加された。国内、米の生産量（籾ベース）は、506.4万トン（精米換算では423.5万トン）となり、昨年を2.9%上回る事となる。

### <2004/05 年度の穀物需給>

2004/05 年の国内需要は 513.2 万トンと推測される（精米換算）。本年の穀物生産はますますであるものの（表 1 参照）、2004/05 年度の国内供給量は総利用量を大幅に下回ると見込まれる（表 2 参照）。このことから 89 万 7000 トンの輸入が必要となる。このうち、商業輸入は 10 万トンで、有利な条件での輸入は 30 万トンと推定される。この結果、49 万 7000 トンの穀物が不足するが、このうち 17 万トンは誓約済みもしくは受取り済みの分である。

表 1 : 2003/04 年度と比較した 2004/05 年度の穀物の生産面積、単収及び生産量

作物	2004/05 年度			2003/04 年度			2003/04 年度に対する 2004/05 の変化 (%)		
	面積 (千 ha)	単収 (ト/ha)	生産量 (千ト)	面積 (千 ha)	単収 (ト/ha)	生産量 (千ト)	面積 (千 ha)	単収 (ト/ha)	生産量 (千ト)
主作期									
米 1/	583	4.06	2 370	584	3.84	2 244	-0.1	5.7	5.6
トウモロコシ	495	3.49	1 727	495	3.48	1 725	0.0	0.1	0.1
その他の穀物	60	1.99	119	60	2.20	129	0.0	-9.5	-7.4
じゃがいも 2/	89	2.90	258	89	3.20	285	0.0	-9.3	-9.4
計	1 227	3.65	4 475	1 228	3.54	4 384	-0.08	3.0	2.1
冬/春									
小麦	70	2.37	166	69	2.13	146	2.2	11.2	13.6
大麦	32	2.04	64	34	2.01	69	-8.1	1.3	-7.0
じゃがいも 2/	100	2.56	255	98	2.20	216	1.3	16.4	17.9
計	201	2.41	485	201	2.14	431	0.04	12.4	12.5
合計	1 428	3.47	4 959	1 429	3.35	4 815	-0.04	3.7	3.0
家庭菜園と傾斜農地を含む合計			5 064			4 920			2.9

1/ 精米換算で、単収および生産量の推定値は、昨年は 2.50 トン/ha および 145 万 9000 トンであったのに対して、本年は 2.64 トン/ha および 154 万 1000 トン。

2/ じゃがいもの穀物換算率 25%

\* 数値は、四捨五入されているため、合計と一致しない場合がある。

表 2 : 2004/05 年度 (11 月/10 月) 穀物 1/ 需給表  
(単位: 千トン)

	2004/05
<b>国内供給量</b>	<b>4 235</b>
繰越在庫	0
国内生産量 1/	4 235
- 主作期 2/	3 750
- 冬/春	485
<b>総利用料</b>	<b>5 132</b>
食用消費量	3 959
飼料用消費量	181
種子用必要量	230
その他収穫後のロス	762
<b>輸入必要量</b>	<b>897</b>
商業輸入量	100
借入れによる輸入量 3/	300
<b>未確定の輸入必要量 4/</b>	<b>497</b>
受取り済みもしくは誓約済み緊急食糧援助量	170

1/ じゃがいも (穀物換算率 25%) を含む。

2/ 家庭菜園生産量 (50 000 トン) と傾斜地生産量 (55 000 トン) を含む。

3/ 大韓民国からの借入れによる穀物輸入予想量は、減少の可能性あり。

4/ 120 000 トン が既に WFP を通して誓約済みであり、中国との二国間援助 50 000 トンが見込まれる。

\* 数値は、四捨五入されているため、合計と一致しない場合がある。

**Please Contact.**

プレスリリースへのお問い合わせ、ご意見等は FAO 日本事務所小平・吉村まで  
電話、ファックスでご連絡ください。

国際連合食糧農業機関 (FAO) 日本事務所  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1  
パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 6 階  
TEL: 045-222-1101, FAX: 045-222-1103

FAO 日本事務所のホームページは <http://www.fao.or.jp>  
FAO 本部 (ローマ) のホームページは <http://www.fao.org>

<このプレスリリースは11月18日付けで発表された FAO (国連食糧農業機関) の「世界食料情報早期警報システム (GIEWS)」により取りまとめられた「FAO/WFP 北朝鮮食料・農業事情合同調査報告書」をもとに作成されております。 GIEWS は世界各国の食料生産・消費・貿易等に関する最新の情報により現在及び将来の食料需給を継続的に監視し、緊急の食料不足が発生した場合、当該国が必要とする緊急食糧援助の量を把握するとともに、これらの情報を援助供与国や NGO 等へ直ちに提供するシステムです。なお、本プレスリリースは、FAO 日本事務所ホームページに掲載される予定です。 >